

平成13年度センタープロジェクト報告

DB/DAプロジェクト

市川伸一、安田直樹、馬場肇、大越克也、岩本信之

DB/DAプロジェクトは、データベースとデータ解析に関する研究開発、および、天文データセンターの運用を行うセンタープロジェクトである。国立天文台外の方々にも多く参加していただいております、平成13年度の本プロジェクトの参加者は約25名であった。

・天文データセンターの運用

天文カタログ（数値や文字の表形式データ）、文献データベース（ADS;ApJ, AJ,PASP,A&A,A&AS）、天文画像（全天乾板のデジタル版であるDSS/DSS2など）、IUE データアーカイブ、HST データアーカイブなどの様々な天文データベースを運用公開し、国内外の研究者の利用に供している。

また、平成7年より運用されてきた岡山天体物理観測所、東京大学木曾観測所のデータアーカイブ（MOKA）に、すばる望遠鏡のアーカイブデータを加え、新たなシステム SMOKA として平成13年6月より運用を開始した。

さらに、宇宙科学研究所宇宙科学企画情報解析センターとの協同開発・協同運用である多波長画像表示システム（MAISON）に新機能を加えた新版（jMAISON）を平成13年5月から公開した。

これらのサービスは、全て天文データセンターのWEBページ（<http://dbc.nao.ac.jp>）からアクセスできる。

・データベースとデータ解析に関する研究開発

これまで3度の大改造を施してきた、岡山天体物理観測所、東京大学木曾観測所のデータアーカイブ（MOKA）に、すばる望遠鏡のアーカイブデータを加え、根本的な再構築を図った SMOKA の開発を引き続き進め、平成13年6月より公開を開始した。さらに、移動天体（小惑星など）の検索機能など、天文学研究を推進させるためのより高度な機能の開発を進めている。

また、宇宙科学研究所宇宙科学企画情報解析センターと協同で多波長画像表示システム（MAISON）に新機能を加えた新版（jMAISON）の開発を進め、平成13年5月から公開した。使い勝手の向上、および、対象データとしてすばる望遠鏡やHSTなどを組み入れる等の更なる開発を進めている。

平成14年1月より、スーパーSINETの一環として宇宙科学研究所との間に1Gbpsの専用接続が実現し、これを活用した天文データベースの連携運用などの実験研究を進めている。

以上。